

できることを考えて、家畜農作業事故を防ぐ

網走農業改良普及センター 地域課題解決チーム

(笠井千会、大畑和子、森光生、安田美香、宿澤光世、安沢菜花子)

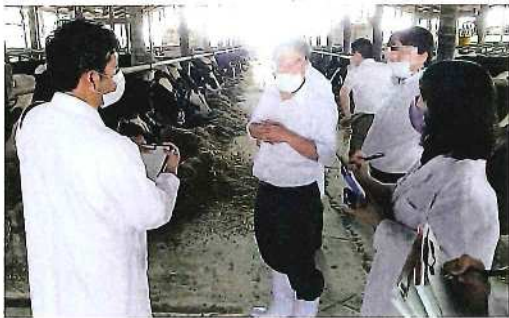


写真1 現場での労働安全の検討（ホクレン訓子府実証農場）

網走農業改良普及センター（以下、普及センター）では、「地域課題解決研修」として平成30～令和2年にかけて家畜農作業事故（以下、家畜事故）発生防止に向けた調査研究を行いました。その内容に

ついて紹介します。

衝撃！家畜事故、管内7戸に1件発生

皆さんは、家畜事故が減っていると思いますか？家畜管理は昨今のスマート化や機械化などにより効率性が確実に向上していますが、一方で、北海道の家畜事故件数は残念ながら増加し続けています。普及センターでは、オホーツク管内における家畜管理時のみに特化した事故内容を検証しました。結果、「約7戸に1件家畜事故が発生している」という悲しい現実がありました（注：草地や畑の事故は除く）。私たちは、どうす

れば1件でも多く、家畜事故を減らすことができるのかを調査し、現在は「家畜事故は対策をするほど防ぐことができる」と考えています。これから事例を紹介しますので、皆さんのさらなる安全な作業につながればと思います。

※本内容の詳細は、資料「家畜労働安全のすすめ」に掲載しており、インターネットで入手できます。QRコード（図1）を利用するか、「網走農業改良普及センター」で検索してください。



図1 網走農業改良普及センターHP

農場でできることは？

農場で何よりも必要なのは「意識」です。次に紹介する事例は、家畜への配慮や、働きやすい環境づくりへの意識が高く、労働安全を考える際にとっても参考になりました。

(1)労働安全の仕組みをつくり、農場が一丸となって安全を意識する「トップファームグループ」(佐呂間町)

トップファームグループは肉牛と酪農の大規模経営を展開しており、従業員は81人（8月1日現在）、平成24年に農場HACCP、29年にJGAPをそれぞれ取得しています。



写真3 注意牛の掲示。柱の裏、ペンの奥にもある



写真2 休憩室の机に安全への掲示

場長はまず、「牛さんのおかげで食べていける」という姿勢を全員で徹底しており、これが結果的に安全につながっているのでは」と話していました。

労働安全の仕組みでは、従業員休憩室の机上に農作業安全に関係する注意書きがあ

り、自然と目に入るようになっていきます(写真2)。ヒヤリハットや事故が発生したら、従業員は必ず報告し、改善・対策の実施を徹底していきます。その内容は、社長や場長が現場で確認します。気性が荒い、人に近寄ってくるなどの牛は、「注意牛」として牛番号を掲示し(写真3)、ペンの内外から存在を確認しています。牛の移動時は作業者の安全確保のため、マニュアルに沿って複数人での作業を徹底している他、移動用ケージに入れてタイヤシヨベルで運搬を行っています。

朝礼時に日直の従業員が話す「今日のこと」では、事故防止に関する発言が多く、作業安全に努める雰囲気づくりが社員全員で行われています。(2) 当たり前のことを当たり前に行い、安全・ゆとりへのコストを惜しまない「(有)石川ファーム(津別町)



写真4 津別町有機酪農研究会で労働安全に関する研修

石川ファームでは、有機JAS牛乳の認証に加え、代表を務める津別町有機酪農研究会(4戸)でJGAP団体認証も取得して、環境整備や労働安全にも、地域の仲間と共に取り組んでいます(写真4)。夫婦で酪農・畑作を営んでいる石川ファームでは、作業負担の軽減と労働安全にはコストを惜しみません。3年ほど前に自動給餌機を導入し、1日4時間かかっていた給餌

作業が30分になりました。その分、労働時間が削減されて気持ちにもゆとりが生まれ、慌ただしく作業をすることがなくなりまし。さらに増頭も行い経済的な効果もありました。また、ミルクラインも地下に埋め込み、人の頭に当たらないようにし(写真5)、人の作業通路にも全てゴムマットを設置。牛舎の壁や通路には余計なものを置かないなど、安全と利益の両立が実現されています。

(3) 働いている人を思い、記録を基に対策を練っていく「(株)学林ファーム(八雲町)

学林ファームは、会社の構想段階から農場HACCPとJGAP取得を念頭に置き設



写真5 人の頭に配管が当たらないように埋め込むなど、安全へのコストは惜しまない

作業事故・ヒヤリハット報告書 作成日 2024年 12月 15日

1st 報告書を書くのは当事者で、どの事故を記入してもらうかはその都度取締役が判断します。学林ファームでは「事故後病院に行った」等が対象です。

2nd 事故の程度は「重大」「軽微」「ヒヤリハット」に分類します。次に「どこで」「何をした時」「どうなった」そして「その時の自身の状況」も記入します。

3rd 「今後どうするか」等を当人が考え、記入します

4th 取締役で、事故を9段階に分けた「リスクの見積評価」をして、再発防止策を検討し、周知します

5th 完了したら押印して保存します

このリスクの見積評価	1) 発生頻度	2) 発生確率	3) 被害	4) 対策	5) 対策	6) 対策	7) 対策	8) 対策	9) 対策	10) 対策
1 (高) 日常的・定期的に発生	大	大	大	中	中	中	中	中	中	中
2 (中) まれに・非定期的に発生	大	中	大	中	小	中	小	中	小	小
3 (低) おおむね起こりにくい	中	小	中	小	小	小	小	小	小	小

写真6 作業事故・ヒヤリハット報告書

立されました。搾乳ロボット6台と繋ぎ牛舎2棟で経営しています。

代表は「心身共に働きやすい環境は事故防止につながる」と考えており、牛舎へ行って積極的に従業員に声を掛けて話を聞くなど、環境づくりに努めています。

また、「事故は誰にでも起こり得るものですが、起きて

しまったことをあいまいにせず記録に残し、同じ失敗を繰り返さないようにすることを実践しています。事故やヒヤリハットが起きた際は、当事者がヒヤリハット報告書を記入します(写真6)。報告書によって自分の失敗を冷静に見つめ直し、さらに取締役がリスク評価をして農場全体に周知する、という仕組みに



写真7 はしごに滑り止めテープを巻く



写真8 牛頭を保定し、スペースを確保

安全対策をしよう!

農場内の至る所に「危険」は潜んでいます。危ないと感じた場所や、作業中のヒヤリとした場面を振り返り、安全対策を行いましよう。現場で実践された対策やグッズの一部を紹介します。

【事例①】(写真7)

パーラー内のはしごが滑りやすくて危険でした……。 (対策) 滑り止めテープを巻き付けました!

【事例②】(写真8)

繋ぎ牛舎で牛の横に入り作業をしていたら、隣の牛に蹴られ骨折……。 (対策) 牛頭を保定し、作業スペースを確保しました!

《安全グッズ①》

チェストアーマー(バイク用として市販されている、胸部専用の保護プロテクター。牛に挟まれたり、ど突かれたときの胸部保護対策。写真9上)

《安全グッズ②》

手甲ガード・足甲ガード(骨折防止のためのプロテクター。どちらも脱着が容易で軽量。写真9下)

他、対策や安全グッズについては冒頭に紹介した資料に掲載しています。

対策を考えるツール

普及センターでは、農業者が「事故は防げる」という考え方を醸成し、事故を未然に防ぐための「対策トレーニングシート」を作成しました。



写真9 負傷を軽減させる安全グッズ

「対策トレーニングシート」

は4段階になっており、農場で作業する全ての人(家族・従業員)と一緒に農場の危険箇所について検討し、実践していくものです(図2)。

【第1段階】ヒヤリ・ハットした作業や危険だと感じる作業を全て出します

【第2段階】第1段階で出た作業がなぜ危険になってしまっのか、原因を考えます

【第3段階】第2段階で出た原因の具体的な対策を立てます

【第4段階】いつ、誰が、どのように行うのかを決定し、実行します

一度の検討で終わらず、定期的に検討し改善していくこと

図2 「対策トレーニングシート」と活用例

「対策トレーニングシート」活用例

第1段階 「事実をつかむ」	第2段階 「原因追究」	優先 度合 算	第3段階 「対策を立てる」	第4段階 「行動」
「〇〇△△になる」	「□□だからである」	印や番号を	これからはどうする?	出来たら○を!
牛が暴れて引っぱられる	ロープを手に巻き付けて牛を移動させている	◎	①ロープは手に巻き付けない ②危ないと思ったら手を離す、逃げる	○
牛が驚き足を踏まれる突き飛ばされる	無理やり移動させようとしている	◎	①大声を出さない ②帽子・安全靴・プロテクター(右写真)を着用する	○
他の牛に押される	移動させる牛しか見ていない	○	2人以上で作業をする	○

「対策トレーニングシート」は「網走農業改良普及センター」で検索か右のQRコードで入手できます。

資料URL <http://www.okhotsk.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

とが重要です。

おわりに

農場の経営形態はさまざまですが、本記事の事例やツールで安全な環境がより整えら

れ、家畜事故が起こらないことにつながれば幸いです。最後に、本内容に当たりご協力をお願いした全ての農業者および各関係機関の方に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。